

平成 29 年 第一回 相談支援部会 報告

日 時 平成 29 年 6 月 6 日 (火) 14:00～16:00

場 所 東久留米市役所 602 会議室

出席 松本 (身体障害者福祉協会)、小田島、高原 (ぶどうの郷)、石井 (ハローワーク三鷹)、岡島 (バオバブ)、貝沼 (こぶし)、中村 (グッドライフ)、小林 (わかき学園)、有馬 (ゆう)、太田 (東久留米市役所)、井出 (東久留米市役所)
ゲスト→鈴木 (あおぞら)、渡辺 (さいわい)

① 第一回 自立支援協議会 報告

② 就労支援の現状 ～下線部分は、地域課題 (参考)～

さいわい→身体・知的障害対象

- ・ 6 月現在で、登録 130 人、うち 99 名が企業就労している。
- ・ それ以外の方は、就労移行事業所で訓練したり、自宅で就活中の方。
- ・ 就労ということではなく、「困っている」という相談のみも、月 4～5 件ある。
- ・ 知的でも精神の支援が必要な場合などもあり、横で連携して、支援している。

あおぞら→精神障害対象

- ・ 平成 28 年度は、登録 72 名、40 名が就職している。主に、事務・店員・清掃関係。年度で登録を更新している。平成 27 年から 28 年は、登録者数が 4 割増えた。支援者数 (就労している人) が 7 割増えた。
- ・ 発達障害や、高次脳機能障害の方も利用している
- ・ 「就労支援」＝「働ける」という言葉に反応して相談にくる。実態は、働ける状況ではないことも多い。
- ・ 「うつ」の相談もある。
- ・ 平成 30 年からの雇用率の改定や、社会環境が整ってきている。
- ・ 20 年前に比べて、精神障害の方も、薬がよくなったせいか、表情がよくなっている。
- ・ 精神障害は、最初のアセスメントがとても大切。アセスメント次第で、企業とのマッチング、企業への説明ができる。
- ・ 登録人数が増えると、職場のフォローが難しくなっている。

質疑応答

「登録されている方で、発達障害はどの程度いるのか？」

- ・ さいわい→20 名くらい+診断はされていないが、発達障害の疑いの方もいる
職場の理解があれば、長く続けられる。細かいことを言う上司は NG
あいさつできて、毎日通って、ゆっくり仕事すればいいよ～というスタンスの上司がベスト。

女性でも男っぽい方（？）の下で働いている人のほうが安定している。
得意なこと、できないことをはっきりさせて、企業が利用者にアプローチの仕方
方を考えてもらっている。企業とのアセスメントが大切。

- ・ あおぞら→3割くらい+ α

障害に対する自己理解ができていて、得手不得手を理解して仕事を選んでいる。
本人の特性を理解して、企業とマッチングすることが大切。

「市内の企業の就職の実態は？」

- ・ 企業は、どうしても大きい企業になってしまっている。雇用率の対象も50人以上の企業となっているので。
- ・ 市内の中小は、難しい。商工会と話したこともあるが、現在は、アプローチできていない。
市内の事業で50人以上の企業が少ないので・・・
- ・ 知的の方は、電車にのることが好きな方もいるので、都内も選択できる。精神の方のほうが、近くでという希望がある。
- ・ 雇用するのは、トップだが、対応するのは、現場。現場は自分の仕事を抱えながら、障害者をみる、という仕事がプラスされる。担当者の対応次第でかわってくる。

「ジョブコーチとは？」

- ・ 都内に2か所ある。さいわいからお願いすることもある。ジョブコーチは、20回支援、と回数が決まっている。利用の仕方は、集中的に使うことが多い。

「年齢層は？」

- ・ さいわい→20～30代がほとんど。働きたい、という意思があれば、年齢が上でも受け付ける。
清瀬特支からの新卒も多い。
愛の手帳保持者の大学生も増えている。大学には入れるが、バイトをしても続かない～就活しても受からない～というので相談にくる。障害者枠での実習もしていないので、すぐに就職は難しい。親は「大学をでたのに～」と家族の思いと違う
- ・ あおぞら→中途障害で、30～40代が多い。
昨年初めて18歳の方がきた。最近では若い方が増えてきた。
病名がバラエティに富んできた（統合失調症、パニック障害、摂食障害、etc...）
知的と同じく、大学4年で精神手帳あり、という方が増えている（発達障害）

- ・ 「B型作業所の方で、企業就労したい、という方がいて、力もあると思うが、1事業所として、どこまでできるのかわからない」
- ・ 福祉サービスを受けていても就労支援室に登録はできる。フォローしていける。

「就労した方が、B型の利用を続けられるのか？」

- ・ 行政の判断次第。現状は難しいが、役所と相談。

ひきこもりの方の把握、支援、掘り出しについて

- ・義務教育の間はつながっているが、高校でつながりが途切れる。16～18歳のフォローがない。そのままひきこもって、気が付けば40歳、という相談がハローワークで多くなっている。社会にでたこともないのに、就職したい、と言われても・・・
- ・小～中～高、とつながる制度が必要。一人一人のカルテみたいなものが必要。障害がある方が仕事をするためには、支援が必要。
- ・社会と接点を失う期間が長いと回復が難しい。把握のシステムが必要だし、接点がついたら、継続することが必要。
- ・わかき卒園児も、成人を祝う会など、継続するようにしているが、関係が切れてしまう人もいる。そういう人が引きこもりの心配もある。所属をやめてしまうとわからない。
- ・わかきと教育センターとの仕事のわりふりにつながりが大切になっている。
- ・地域の特別支援学校は拒否して、永福など職業校ならと、受験して、落ちて、結局普通高校（通信含む）に行き、支援がなく、就職できないで引きこもる。
- ・若者支援、教育、横のつながりが大切。
- ・市役所でひきこもりの相談窓口はあるが、本人か家族の相談がないとアプローチは難しい。ひきこもりについては、本人の意思もあるので、難しい。
- ・ひきこもりの方を社会にだすのは、本人の納得がないと無理。家族が高齢になり、相談にくる。家族支援のほうが重要、という場合もある。

各事業所より

- ・就労移行支援をやっているが、利用が少ない。1法人としては、終わりでもいいのかと思っているが、計画相談を利用しない方たちなので、見守りの場として必要な、と思っている。本人が40歳以上になると親も高齢で親からの支援が減ってくる。そうすると、身だしなみなど、本人の生活支援が課題と感じる。
- ・ハローワークに直接相談する方は、本人の未成熟か、意識か、継続が難しい。自己理解のやり方がわからない。他機関のプログラムも利用したりするのだが・・・
- ・仕事＝生活、だと思う。乳幼児から大切にすることを教えてほしい。ライフワークを考えて、相談業務をやっていききたい。

研修会について（案） 東洋英和女学院 石渡先生 テーマ「地域社会のネットワーク作り」

次回 9月5日か12日

テーマ「児童について」・・・部会メンバーの他の参加については、事務局で相談